

市民が望む 市民のための 新医療センター 早期に建設を！

民報
おうしゅう

読者版

発行
赤旗奥州出張所
水沢大手町三丁目
59番地
Tel 24-2021
Fax 24-2049

奥州市議会9月定例会は、9月27日まで開催され、約一か月の論戦の幕を閉じました。今回は、日本共産党市議団の一般質問最後となる、佐藤美雪議員の質問を紹介します。



佐藤美雪 議員

総合水沢病院の耐震性に問題 すぐにでも建て替えが必要

新医療センター整備計画は、元々、平成24年に総合水沢病院の耐震性に問題があると指摘され、建て替えが必要であることから進められてきたものです。

佐藤美雪議員は、①前述のように水沢病院の建て替えが早期に必要であること、②介護ニーズや小児科、思春期外来など子育て環境に配慮した役割を担うこと等、新医療センターの必要性和役割について改めて市長を質しました。

丁寧な説明、必要な理解を 得ながら進めたい

市当局は、①いつ災害が起こるか分からない中で、耐震性が

低い危険な施設は使いたくないところだが、この計画を進めるうえで、市民理解は必要であり、慌てず進めて行く。②人口減少は進むが、高齢者は増える傾向の中で、回復期が重視される。また、小児科の休日診療や思春期外来の開設に努力したい、と述べました。

市長が先頭に立ち、市民に 説明する姿勢が必要では？

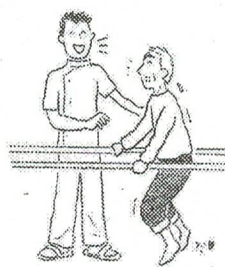
佐藤議員は、市民や医師会からの不安や疑問に答えるうえで担当者だけでなく、市長自ら先頭に立ち、計画の役割、意義について発信していくことが必要



総合水沢病院

ではないか、と質しました。それに対し市長は、医師会とは地域医療懇話会以外にも懇談し、口腔外科や産科の話、へき地医療などについて意見を伺っている。それぞれの連携をどうすべきか、一つひとつ話し合いを進めている、と述べました。

市民説明会には、出張等のため出席できないが、ビデオメッセージで伝えていきたい、と述べるにとどまりました。



将来的に新医療センターで 分娩できる可能性を 最後まで模索すべき

佐藤議員は、市長が新医療センターに分娩機能の設置は非常に難しい、と表明してからも市民の間から「子どもを産める体制づくり」との根強い要望があることから、今は難しくても将来に向けて分娩機能設置の可能性を模索すべき、と質しました。

市当局は、分娩機能についてはやはり非常に厳しい状況、と従来の答弁を繰り返したうえで、「新医療センターで妊婦検診を行えるようにしていく必要

がある。そういう分野での産科医の招へいは検討していく」と述べるにとどまりました。

災害避難時 高齢者等へ寄り添う 避難所運営を

佐藤議員は、8月11日の台風5号接近に伴う高齢者等避難

発令時の経験から、自助として食料、日用品おおよそ3日分を持参することが推奨されている。また、体育館の避難所において段ボールベッドの設置がなく、座布団等が必要な状況であ

ったが、高齢者等には難しい部分があると指摘。避難者に寄り添う姿勢が必要ではないかと質しました。

避難所運営の実態と課題を 把握し、見直しを進める

市当局は、現在、避難所運営の実態と課題について把握に努めているところであり、見直しを進める。避難時には自助が原則であるが、高齢等、様々な理由で持参できないことも考慮しながら避難所の環境について検証していきたい、と述べました。

衆議院議員（比例）

高橋ちづ子 LINE 公式 開設♪

日本共産党 高橋ちづ子衆議院議員の

LINE 公式アカウントができました！

ちづ子さんの動画や活動報告、お知らせが届きます。この機会にぜひ、登録してご家族、お友達にも広げ、応援してください。



高橋ちづ子 LINE 公式



QRコードからご登録
いただけます。
みなさんのご登録を
お待ちしております。